

トラック 10

昔々、ひとりのスルタンがイツァンドラにいた。彼の名はリジャラバツァだった。リジャラバツァはニツォネという女と結婚し、彼はこの娘を自分と共にイツァンドラに連れて行った。

イツァンドラに居を構えた後、彼らに子供が生まれた。それは男の子だった。彼はこの子をムチャムウニィを名づけた。「洗礼」を施して数日後、彼は魔術師たちを呼び集めた。彼らは、この子を殺す方がいいと彼に告げた。というのも、もし彼が命あることになれば、危険になるからである。そこで彼は剣を取り、彼を殺そうとした。幸いにも妻が子供を救い、漁師たちに子供を委ねた「この子を連れて行ってください」。こうして漁師たちが子供を連れて行った。

スルタンはこの子供の命など気かけなかったもので、もし見つけたらきっと殺しただろう。それで母親が他所に遣ったのである。他所に遣られた子供はそこで生活し、成人するまでに育った。成人になってから彼は旅を始め、彼はバダマジナドモで友を得た。彼らは大の親友だった。或る日、彼らはひとりの男にあった。その男は異国人で、コモロへ向かう途中だった。彼は言った「マホメトという人がいる。彼は預言者で、あることを伝えるために遣わされたのだ」。彼らは答えた「我々はその人に会いに出発しよう。彼に会うために出来ることは何でもやろう」。

そこで彼らはダウ船に乗って出発し、コモロから離れた。彼らは非常に遠くまで、他の人々がマホメトに会うために赴いたところまで行った。

「我々は、預言者がおられる場所を見つけようと来ました」。

「彼は6ヶ月前に亡くなられた」。

「何と、彼は6ヶ月前に亡くなられたのですか！」。

ムバダマジの男は言った「私はここでやめてコモロに帰る」。

「もうひとりはこちら言った」「私は彼に会いに行くと言った。だから彼の墓にお参りするまで行く。」

ムバダマンジの男はそこでやめ、学ぶべきことを学び、それからヌガジジャ（グラント・コモロ）に向けて発った。彼はこの信仰を持ち帰り、それを知らしめ、解釈することを始めた。もうひとは、墓に着くまで行き続けた。そこで、彼はどこから来たか尋ねられた。

「私はコモロと呼ばれるところから来ました」

彼に尋ねた人は、彼が自分の国で[その信仰を]知らしめることが出来るために、彼が知るべきすべてのことを学ぶのが良いと判断した。それで彼は学び、その知識を持ち帰った。

帰ってから彼は、町に[預言者の]言葉を広め始めた。この言葉は好意的に受け入れられ始め、そしてしっかりと根付き始めた。

人々は文明化した町を作り始めており、この場所はかつてはナシントンと呼ばれていた。しかし、自分が学んだことをこの人物がもたらして以来、彼はこの場所をサワヒニと名づけることにした。